



静銀ティールーム証券

投資環境レポート 2018年8月号

1. 先月の振り返りと今月の注目点・今後の予想レンジ

米国の堅調な景気を背景としたトランプ政権の対外強硬姿勢はエスカレートしており、11月6日の米中間選挙までは米中貿易交渉には注意が必要だが、日米の株価は緩やかに上値を窺う展開を予想【日経平均株価 8月予想 21,500円～24,000円】。

<先月の振り返り>

- ①株式市場・・・米国株式は米中による追加関税の導入があったが、良好な第2四半期の決算が相次いだため上昇。月末にはフェイブックなど大手ハイテク株の増収率減速等を材料に売られ、一時的に調整。日経平均株価は米中貿易摩擦激化懸念による中国株安を受け、上旬に一時21,400円台まで下落。中旬以降は米国株上昇や円安進行から22,900円台まで上昇するなど堅調に推移。
- ②債券市場・・・米10年国債利回りは米中貿易摩擦激化への懸念から上～中旬は2.8%台で推移したが、下旬には良好な米経済指標や米国株高を受け、2.9%台へ上昇。日本の10年国債利回りは日銀の金融政策修正観測等から一時0.1%へ上昇。
- ③為替市場・・・上～中旬は米国企業の好決算や堅調な米消費者物価の発表を受け、円は対米ドル相場で一時113円台まで下落。下旬にはトランプ米大統領の米ドル高への牽制発言や日銀の金融政策調整の思惑から円が買われ、月間では小幅な円安の展開。

<今月の注目点>

11月の中間選挙を視野に、トランプ政権は目に見える成果を得るべく中国以外の国と通商交渉を再開。日米両政府は9日に日米貿易協議の初会合を開催。トランプ米大統領が世界各国に撒き散らす貿易摩擦の火種に対し、日本政府の交渉内容に注目。

- <今月の予想レンジ>
- 日経平均株価 21,500円～24,000円 NYダウ 24,500～26,500ドル
 - 為替相場(ドル円) 109.00円～114.00円
 - 日本10年国債利回り 0.07～0.20% 米国10年国債利回り 2.80～3.00%

2. 主要投信の運用状況(2018年7月末)

銘柄名	基準価額 (円)	累積リターン(%)					
		1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
ブラックロック・ベストバランス戦略ファンド(年1回決算型)	9,670	1.00	0.08	-2.51	—	—	—
東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	11,512	-0.09	-0.16	0.14	2.21	6.00	20.06
アムンディ・ダブルウォッチ	10,268	0.49	0.00	-1.52	-0.71	—	—
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンドAコース	10,501	0.40	-0.39	-1.33	-1.53	—	—
高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	5,137	1.01	0.43	-2.46	-4.09	-8.99	10.14
新成長株ファンド	34,329	-0.51	2.85	1.61	30.28	102.84	256.49
アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース	24,286	2.43	8.04	4.88	21.60	31.58	140.55
LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	8,948	2.04	4.83	-4.71	-1.86	8.26	33.03
グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	14,533	2.53	0.15	-7.79	11.57	—	—
グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	9,447	0.21	5.14	-5.53	—	—	—
グローバルAIファンド	15,761	0.67	7.37	6.83	21.60	—	—
次世代通信関連 世界株式戦略ファンド「THE 5G」	10,017	0.74	2.01	-0.70	—	—	—
ニッセイJリートオープン(毎月分配型)	10,920	0.74	3.59	3.04	7.58	7.52	53.46
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2,418	0.47	8.78	3.53	0.78	-1.81	38.22

(出所) QUICKのデータを基に静銀ティールーム証券が作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために静銀ティールーム証券が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況であり、また、見通しなしいし分析は作成時点での見解を示したものです。したがって、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等は考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の静銀ティールーム証券商品部の見解です。また、静銀ティールーム証券が取り扱う商品における投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

● 投資信託にかかるご注意

- ◆ お客様にご負担いただく費用
 - 直接ご負担いただく費用 ・申込手数料 上限 3.78% (税込) ・信託財産留保額 上限 0.5%
 - 間接的にご負担いただく費用 ・信託報酬 上限 2.376% (税込) ・その他の費用 監査報酬、売買委託手数料等

※「その他の費用」につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を表示できません。

また、費用等の合計額につきましても、申込金額や保有期間等に応じて異なりますので表示できません。

※上記の費用の料率につきましては、当社が販売する投資信託のうち、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※外貨建て外国投資信託の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、当社が決定した適用為替によるものとします。
- ◆ 投資信託のリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や債券、REIT、その他の有価証券等を投資対象としますので、組入る有価証券等の価格の下落(価格変動リスク)や、組入る有価証券等の発行会社の倒産や財務状況の悪化(信用リスク)、また外貨建資産に投資する場合には為替の変動(為替リスク)等の影響により基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。ファンドによっては、換金できない期間がある場合や、1日あたりの換金額が制限される場合があります。詳細は各ファンドの契約締結前交付書面(投資信託説明書(交付目論見書)および補完書面)をご確認ください。

● 上場有価証券等にかかるご注意

- ◆ お客様にご負担いただく費用

上場有価証券等の売買にあたっては以下の手数料をいただきます。

 - ・日本株式 約定代金に対して税込み最大1.188%(最低料金1,620円)
 - ・新株予約権付社債 約定代金に対して税込み最大1.188%(最低料金2,700円)
 - ・外国株式 約定代金に対して税込み最大1.080%
- ◆ 上場有価証券等のリスクについて

株式相場、金利水準、為替相場等の変動等によって上場有価証券等の価格が変動し、損失が生じるおそれがあります。上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況の変化によって上場有価証券等の価格が変動し、損失が生じるおそれがあります。

上場有価証券等のお取引の際は、あらかじめ上場有価証券等書面をよくお読みください。

● 円貨建て・外貨建て債券にかかるご注意

- ◆ お客様にご負担いただく費用

債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

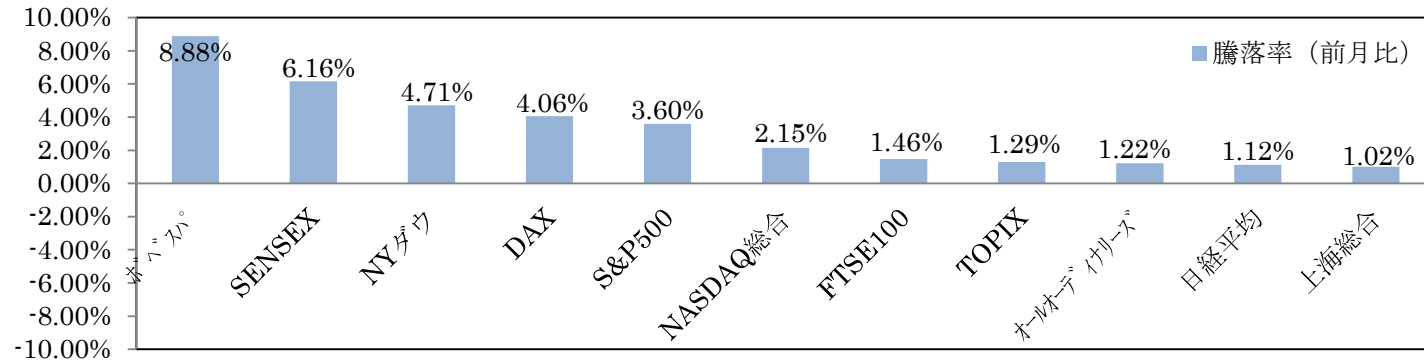
外貨建て債券の売買、償還等にあたり円貨と外貨を交換する際には、当社が決定した為替レートによるものとします。
- ◆ 債券のリスクについて

債券の市場価格は、基本的に市場の金利水準の変化に対応して変動します。したがって売却の場合は売却損が生じるおそれがあります。

外貨建て債券は為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。債券の発行者等の業務や財産の状況の変化によって債券の価格が変動し、売却損が生じるおそれがあります。

上記は、債券のすべてのリスクを表記したものではありませんので、お取引の際は、あらかじめ契約締結前交付書面をよくお読みください。

3. 株式＜主要株式指標 騰落率(前月比)＞



＜主要株式指標 月末終値＞

日経平均	TOPIX	NYダウ	S&P500	NASDAQ	DAX	FTSE100	オールオーストラリア	上海総合	ボヘミア	SENSEX
日本	日本	アメリカ	アメリカ	アメリカ	ドイツ	イギリス	オーストラリア	中国	ブラジル	インド
22,553.72	1,753.29	25,415.19	2,816.29	7,671.79	12,805.50	7,748.76	6,366.20	2,876.40	79,220.43	37,606.58

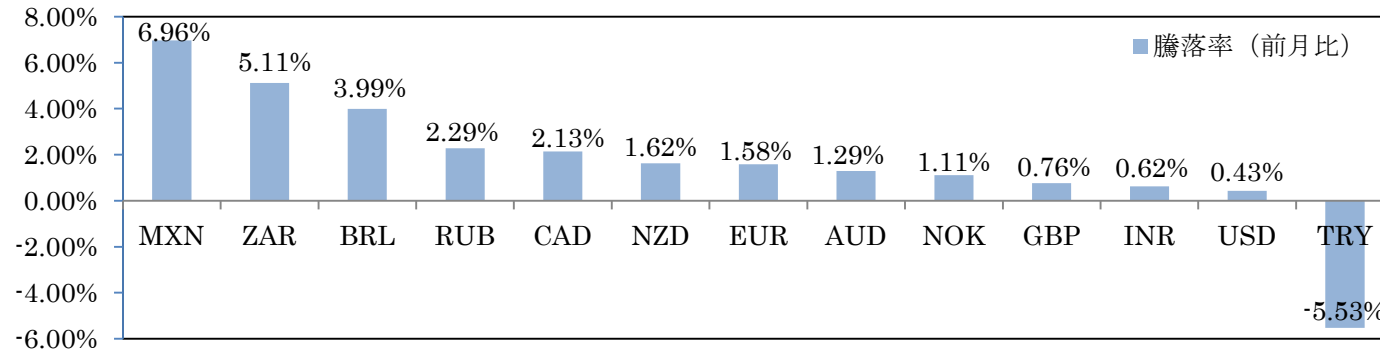
(出所) : QUICK のデータを基に静銀ティーエム証券が作成

＜先月の回顧＞米国株式は米中による追加関税の導入があったが、良好な第2四半期(4~6月)の企業決算が相次ぎ発表され上昇。月末にはフェイスブックなど大手ハイテク株の増収率減速等を材料に売られ、一時的に調整。日経平均株価は米中貿易摩擦激化への懸念による中国株安を受け、7月5日に21,400円台まで下落。中旬以降は米国株上昇や円安進行を受け、7月18日に22,900円台まで上昇するなど堅調に推移。

＜今後の見通し＞米中による制裁関税の相互発動継続から、貿易摩擦は引き続き懸念材料だが、米国の堅調な景気と好調な企業業績が株価の下支えとなり、日米株ともに緩やかに上値を窺う展開を予想。

(今月の予想レンジ) 日経平均株価 21,500~24,000円 NYダウ 24,500~26,500ドル

4. 外国為替＜主要通貨対円 騰落率(前月比)＞



＜主要通貨対円 月末気配レート＞

USD	EUR	GBP	AUD	CAD	NZD	NOK	BRL	INR	MXN	RUB	ZAR	TRY
アメリカ	EU	イギリス	オーストラリア	カナダ	ニュージーランド	ノルウェー	ブラジル	インド	メキシコ	ロシア	南アフリカ	トルコ
111.01	129.93	145.69	82.21	85.17	75.79	13.65	29.74	1.63	5.99	1.79	8.43	22.72

(出所) : QUICK のデータを基に静銀ティーエム証券が作成

＜先月の回顧＞上~中旬は米国企業の好決算や堅調な米消費者物価の発表を受け、円は対米ドル相場が7月19日に113円台まで下落(円安ドル高)。下旬にはトランプ米大統領の米ドル高への牽制発言や日銀の金融政策調整の思惑から円が買われ、月間では小幅な円安ドル高の展開。新興国通貨ではメキシコ・ブラジルは上昇したが、トルコは引き続き下落。

＜今後の見通し＞FRB(米連邦準備制度理事会)は9月の追加利上げを示唆(+0.25%を想定)しており、米ドル高円安要因はあるが、米国通商政策を巡る不透明感やトランプ米大統領の米ドル高への牽制発言が想定されることからレンジ相場を予想。日銀の政策変更による長期金利上昇の許容範囲拡大から、一時的に円高に振れる展開も想定。

(今月の予想レンジ) 米ドル円 109.00~114.00円

5. 債券、リート、商品＜月末気配値 または 終値＞

10年国債	利回り	騰落幅(前月比)	リート(配当込)	指数	騰落率(前月比)
日本	0.06	0.03	東証リート指数	3,468.88	0.52
米国	2.962	0.103	S&P米国リート指数	1,262.64	0.67
ドイツ	0.442	0.141	S&P豪州リート指数	743.14	0.91
インド	7.7730	▲0.1215	商品(米ドル)	指数	騰落率(前月比)
ブラジル	10.917	▲0.506	原油 WTI先物	68.76	▲7.27
メキシコ	7.753	0.172	金 COMEX先物	1,233.6	▲1.67

(出所) : QUICK のデータを基に静銀ティーエム証券が作成

＜先月の回顧＞

- ①米国10年国債利回りは米中貿易摩擦激化への懸念から上~中旬は2.8%台で推移したが、7月20日以降は良好な米経済指標や米国株高を受け、2.9%台へ上昇(債券価格は下落)。
- ②日本の10年国債利回りは、日銀の金融政策修正観測等から一時0.1%へ上昇(債券価格は下落)。
- ③WTI(原油先物)は、米国による戦略石油備蓄の放出観測が浮上し下落。

＜今後の見通し＞

- ①米国景気の緩やかな拡大基調の中、FRBの金融政策正常化継続により9月の利上げ(+0.25%により2.25%)を想定。米賃金上昇の緩慢な状況の継続や米中貿易摩擦への警戒感および来年の利上げ終了を見据え、米長期金利はレンジ相場を予想。
- ②日銀は7月31日の金融政策決定会合で、金融緩和による年金保険運用難等の「副作用」に配慮した政策修正を決定し、今後は長期金利上昇の許容範囲を上げたため、10年国債利回りが0.1%を若干上回る推移を想定。(今月の予想レンジ) 日本10年国債利回り 0.07~0.20% 米国10年国債利回り 2.80~3.00%

6. 今月のスケジュール

日本		米国		欧州		その他	
9日	日米通商協議	31-1日	FOMC	2日	BOE金融政策決定会合	1日	インド金融政策決定会合
10日	4-6月期GDP	3日	7月雇用統計	(英国)			ブラジル金融政策決定会合
24日	7月全国CPI	20-23日	【対中制裁】追加関税公聴会	10日	4-6月期GDP(英国)	2日	メキシコ金融政策決定会合
31日	7月失業率		[2000億ドル分]	14日	4-6月期GDP(ドイツ)	7日	豪州金融政策決定会合
		23-25日	ジャクソンホール会合	31日	ユーロ圏8月CPI		

(出所) : 各種報道機関等の情報を基に静銀ティーエム証券が作成

セミナーのご案内＜参加ご希望のお客さまは主催各店もしくは本社サポートセンター(TEL054-254-1010)へお申し込み下さい＞

日時	主催	会場	内容
8月20日(月) 14:00~15:30	掛川支店	生涯学習センター	『社会に大変革をもたらすAI 上昇を続ける背景と見通し』
8月20日(月) 10:30~12:00	浜松西支店	入野協働センター	1. 『マーケットの現状と今後の見通し』
8月20日(月) 14:00~15:30			2. 『新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ / グローバル・スターの運用報告会』
8月22日(水) 10:00~11:30	富士支店	ふじさんめっせ	『ゴールドマン・サックスの考える2018年後半の市場について』
8月22日(水) 14:00~15:30			
8月24日(金) 14:00~15:30	三島支店	葦山時代劇場	1. 『米国株の見通しについて』
8月24日(金) 13:30~15:00	浜松北支店	あいホール	2. 『アライアンス・パートナーズ 米国成長株投資の運用報告会』
			1. 『世界の投資環境と株式動向について』
			2. 『次世代通信関連 世界株式戦略ファンド運用状況について』

【作成】 静銀ティーエム証券(株) 商品部

佐野 寿宏 (日本証券アナリスト協会検定会員・日本FP協会認定CFP/1級FP技能士)
野原 良浩 (日本FP協会認定CFP/1級FP技能士)
長堀 新司 (日本証券アナリスト協会検定会員)